

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070400641
法人名	有限会社アイケアほしの
事業所名	グループホームまんさく
所在地	群馬県伊勢崎市今泉町二丁目831番地1
自己評価作成日	令和5年3月1日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=1070400641-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的であたたかい介護サービスを通して「ここで(親・家族等が)生活できてしあわせだった」と思ってもらえるようにという事と、ご家族の方の認知症介護による心身の負担の大幅な軽減させるという事には特にこだわっています。あたたかい介護サービス実現のためにマジメに働く職員にとってとても働きやすい施設であり続けるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の入れ替わりがほとんどなく、10年～15年の勤務継続者もおり、管理者が掲げる目標「利用者職員との幸せ」「家族の不安を取り除く」を実践できる環境がある。職員の顔ぶれが変わらず安心して過ごしている様子もうかがえた。「生活環境作りと利用者の笑顔の追及」は、一緒に食事をして日々を過ごすことから利用者職員との信頼関係が築かれ、職員の支援から利用者の笑顔が生まれ、それが職員の喜びに至る経緯を大切にしている。また、事業所の歴史の中で変わらず大切にしている食事作りは、利用者と同じ空間で職員が手作りをしている。材料から用意し、利用者の身体状況が歴史を経て変化しているため、利用者個別の食事形態で提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間としての尊厳を大切にして家庭的で暖かな生活を送れるように支援します」等、毎朝利用者と職員で唱和しています。	管理者が採用時に理念を教え、利用者と家族が幸せと思える環境作りを目標に、入居後は在宅時よりもその人らしい「明るさ」を引き出せるように、職員と共に明るい環境作りを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の中クラスター防止の観点から地域との付き合いは非常に少なくなったと言わざる得ません。	希望の外出支援や地域交流も少なくなっしまい歯がゆさを感じている。運営者宅は事業所の隣接地で地域情報は得ている。テーブルに市の広報を置いて利用者に見てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談窓口を設置しており、これまでの経験から相談される方のお役に立てるような提案をしています。相談内容によって他の施設の入居を積極的に薦める事がよくあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催しています。事業所からサービスの状況等の報告を行い、出席者からの意見や質問・要望を受け意見交換を行っています。現在は主に書面開催となっています。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催としている。事業所の運営状況・防災訓練・イベント内容等・日常の様子をまとめ、運営推進会議メンバーに渡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所様は、省令等を随時連絡してくださいますので、市町村と連携した運営ができていますと考えます。また担当課の方々も何か困った事があれば相談しやすいとも私たちとしては感じています。	行政担当者とは直接情報交換を行っている。介護保険の更新代行手続き、認定調査の立ち合いも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員は、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、職員の見守りの中で安全面に配慮しながら日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいます。	玄関は開錠している。共用空間と玄関の間の引き戸を開けると利用者が挨拶を交わしてくれる。職員同士で身体拘束に関して注意しようと共有感がある。身体拘束に関しては業務を修正して、万が一に備えているが、いっそうの課題ととらえている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について研修をしており、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強しており、それらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、十分な説明を行い、利用者や家族に理解・納得していただけるよう心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議で意見を聞く際には、意見等を聴くように努めています。また介護計画をつくる際にも希望や意向を聞いています。	個別の「お便り」を届けている。家族等来訪の頻度は減少している。元気であるか等の様子を気遣う意見が出ている。本人からは希望（見たいテレビ等）や思いを推測することに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、日々の運営に関する職員の意見に耳を傾け努めています。	月に1回会議を開催しているが日常的に意見を聴取している。職員の勤務年数は長く今後勤務形態等の変化も視野に入れている。出された意見はカンファレンス等で支援方法等の修正を共有することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は、職員がやりがい・向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備等に努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月施設内でテーマを決めて研修を行っている。意欲のある職員には外部の研修に参加できるように支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	インターネットを通じて同業者の方のセミナーを受けたり交流する事によって日々の運営・サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活になりますので、本人は多少なりとも不安があると思いますので、安心して生活していただけますよう、温かく接することを特に心がけています。その上で、本人の困っていることや要望に耳を傾け関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時に家族が困っていることや、不安なこと、要望等を面談した上で聴き、利用者が安心・納得した上で利用できるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を聞き、本人の状態と状況を考えてうえで、当施設以外の他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とともに生活していく中で、利用者から教えていただく場面があり、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例えば、家族の方だからこそ見せる笑顔が利用者様に見られたりすることがあるので、家族の方の力をお借りしながら共に本人を支えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況下で馴染みの方達と積極的に関わりができたとは言えません。	コロナ禍では時期によりベランダ越しに家族との面会を実施した。新聞や広告を見て思い出を口にしたり、テレビを見たり、自宅から持ち込んだアルバムを見て心が落ち着く人や積極的に体操に参加している人がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者とともに生活する中で、利用者同士の相性等の関係を把握し、1人1人ができるだけ孤立せず、関わり合い、支え合えるように調整、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの状況下でコロナ前と同じように支援できたかと言うとできなかったと思います。その余裕はなかったという事が実情です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で、利用者の言葉や行動等から思いや意向の把握に努めています。	代表者が介護計画を作成しており、利用者との会話や職員からの日常支援を通して意向を確認している。家族からは、電話や訪問時に希望を確認して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や力量に応じて、洗濯たみや掃除、テーブル拭き等の役割を持ちながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のその時どきの心身の状態や、好み、有する力等の現状について職員同士で情報を共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	毎月1回モニタリングを実施している。3か月毎に認定調査等参考に介護計画の見直しを行っている。また、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りの時に職員で話し合い、意見や気づきを反映させた介護計画に見直しをしたり、職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族等の意向や現状を確認しながら、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あたたかい季節で天気の良い日は近所の散歩等をする事がありますが、これまでのように地域のイベントに参加するという事はコロナの影響で避けるようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族等の希望に応じて、希望のかかりつけ医への受診や通院の支援に柔軟に対応し、適切な医療が受けられるよう医療連携に努めています。	契約時に協力医の説明をし入居前のかかりつけ医のどちらかを選択してもらい、本人が安心できればと家族の選択を支持している。かかりつけ医の受診は希望で職員が支援でき、歯科は必要時に訪問歯科支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、または利用者の状況に応じてバイタルチェックし、看護師に伝え、早期に適切な受診が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの状況ですので、積極的に訪問する事は出来ませんが、状態を伺うなどして病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナル期における事前確認書」を作成しています。利用者、家族等に事業所の方針を説明し、同意を得ています。また、かかりつけ医とともに話し合いを密にして、チームとしての支援に取り組んでいます。	事前確認書に沿って契約時に家族等の希望を聞き、事業所としての対応等を説明している。段階ごとに家族と話し合いながら、最終的なターミナルケアの支援はしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者を中心に、急変や事故発生に早期に対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回程度災害の訓練をしています。地域とのかかわりがコロナの状況で低下していますので地域との協力体制には課題があります。	BCPは利用者と職員の命を守ることを念頭に作成中である。法定の訓練を実施している。備蓄として、水分・食料・経口補水液・栄養食等を3日分程度用意している。	早めのBCP作成を検討してほしい。また、研修で得られた具体的に機能するBCP作成を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、言葉を選び個人の尊厳やプライバシーが損なわれないように配慮しています。	利用者の表情で不快なことや嫌なことを察知して対応している。同性介助を基本にしている。レクリエーションへの参加の意思を確認し、無理強いはしていない。羞恥心やプライドを傷つけない接遇を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人が日常生活の中で思いや希望を表したり、自己決定できるように職員は利用者様に質問し寄り添いながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に支援していて、夜眠れない利用者には職員と一緒にお茶を飲み、話をしながら寄り添っています。テレビを見たい人には、希望の番組を見てもらうようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗面・整容の声かけや見守りをしながら、可能な限り1人1人が好みの身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を献立に取り入れていきます。利用者は力量に応じてテーブル拭き、後片付け等を職員と一緒にしています。	職員の手作りによる提供を長年大切にしている。個別の状態に応じて形態を変え、ご飯は炊きたての提供を意識し、3時等の水分補給には好きなものを選択できる。コロナ禍で外出が制限されているため誕生日会等のイベントで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事や水分量を記録し、職員は情報を共有しながら支援しています。利用者の希望を取り入れながら、新鮮で安全な食材を使用し、栄養バランスのとれた食事を提供・支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人の口腔機能や本人の力に応じた口腔ケアを支援し、口の中の汚れやにおいが生じないように清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や、1人1人の力や排泄のパターンを確認し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	チェック表に応じてトイレでの排泄を基本に声掛けや誘導を行っている。自力の利用者もいる。自身で履き替え洗濯物を持ってくる利用者もあり、尊厳に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排便状況を毎日記録し、水分量や食事量をチェック、記録し、便秘にならないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様1人1人の生活習慣を職員は把握し、その時々状況に応じた対応をしています。	入浴は週2～3回を目安に安全面を重視してシャワー浴での入浴支援をしている。「今日はいいい(入らない)」という場合は時間をずらし、再度の声掛けをしている。入浴を楽しみにしている方もいる。	浴槽での入浴支援や入浴が好きな人には回数を決めずに入れるタイミングで声をかけて支援してはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様1人1人の生活習慣を職員は把握し、その時々状況に応じた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人が使用している薬の目的やその副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かした役割や嗜好品、楽しみ、気分転換等を確認し、毎日張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに近所の散歩や花見はしますが、コロナになってからクラスター予防の観点から地域の行事に参加できなくなりました。	外出制限が継続しているが、事業所近くの散歩、事業所前の駐車場からの花見やベランダに出て外気浴をすることは日常的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解していますが、利用者の状態を考慮したうえで、家族と相談し、お金の使用を支援しています。ただトラブル防止のために大金は持たせないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話ができる利用者様には電話で話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって安心して過ごせるように、写真を飾ったり、生活館や季節感を取り入れて居心地よく生活できるように支援しています。	換気は数カ所開けているが利用者は気付いき、寒いという声上がる。献立表やカレンダー、イベントの写真や季節の花を飾っている。食事作りの音やにおいが一日の流れがわかりやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性や希望を考慮した座席の配置をしています。また、ベランダや廊下に椅子を置き、利用者1人1人の居場所づくりを支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや椅子、衣装ケースなど今まで使い慣れたものや好みのものを持参していただき、利用者居心地よく過ごせるように支援しています。	ベッドとエアコンが備わっている。寝具や衣装ケースの他、化粧品などの日用品・家族の写真などが持ち込まれている。すべての居室から敷地内に植えられている果実の木や花の木が見える。汚れ物を入れるカゴが用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、利用者の名前や花を飾っており、自分の居室がわかるように工夫しています。利用者様が自分の部屋がわからなくなった場合は、やさしく温かい言葉がけで誘導します。		